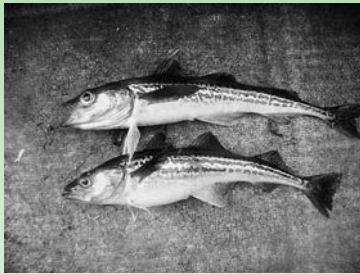


上ノ国町の漁業

第1次産業を基幹産業とする本町で
が収穫され、日本各地に出荷されてい
ここでは、農業と漁業の現状につい



スケトウダラ



ホッケ



ナマコ



アワビ

漁業は、温暖な対馬海流の影響を受けて来遊するスケトウダラやイカナなどの回遊魚を漁獲する漁船漁業を中心に、アワビやナマコ等の浅海漁業によって成り立っています。

しかし、町内漁業者を取り巻く環境は、漁獲量の減少や魚価の低迷など厳しい状況に直面しており、漁業経費についても、多くの割合を占める燃油代の高騰が重くのしかかり、漁具の更新にも多大な経費が必要となつて、経営を圧迫しています。

日本の水産物消費量は近年減少していますが、一人当たりの消費量は世界平均の約3.5倍と、依然として高い水準を維持しており、食生活において重要な役割を担っているところでもあります。

一方、漁業生産量はこの20年で半減し、消費の約半分を輸入に頼る形となっています。

こうした状況の中で漁業就業者も半減・高齢化し、その経営状況は小規模経営が多い漁船漁業で特に顕著です。

現在では、漁獲高の大半を占めるスケトウダラやイカナ

上ノ国の主な漁獲物

販売収入／漁獲量	平成17年		平成24年
イカ	1億4,760万円(516t)	➡	5,188万円(201t)
ホッケ	6,412万円(462t)	➡	9,412万円(430t)
スケトウダラ	5,271万円(249t)	➡	3,034万円(213t)
アワビ	1,963万円(3t)	➡	1,080万円(2t)
ウニ	1,175万円(20t)	➡	2,284万円(37t)
ナマコ	143万円(1t)	➡	6,511万円(19t)

【水産商工課調べ（ひやま漁協）】

どの回遊魚の減少や、来遊数に左右される収益の不安定さなどを補完するためにも、ナマコやウニ、アワビなどの浅海漁業による「つくり育てる漁業」にも力を注いでいます。

これに加え、加工流通施設や漁網・漁具の整備にも助成を行うことで漁業者の負担を軽減し、将来の安定的な収益向上のため全力で取り組んでおります。

漁業への取り組みや助成事業

その他の取り組みや助成事業

- ◆ 漁業後継者の育成
- ◆ アワビ中間育成施設の運営
- ◆ 小砂子荷捌き施設冷却設備工事
- ◆ 漁場調査の推進
- ◆ ウニの移植・放流



漁網・漁具への補助



ナマコ種苗放流事業



加工施設への補助



ニシンの稚魚放流

